

# あふれる子どもの笑顔と育てる喜び、 支えるみんなのあったかな手

核家族が進み、共働きやひとり親世帯が増えるなど、出産や子育てを取り巻く環境は変化してきています。子育て中の親の負担を和らげ、子どもが元気に伸び伸びと成長するためにはどのようなサポートが必要

なのでしょう。子育て中の親、地域、企業そして行政の取り組みを紹介しながら、子どもと子育てに優しいまちの在り方を考えます。

【問】子ども青少年課 ☎613-8356

## 盛岡の子育て事情を知ろう

盛岡のお父さん・お母さんが語る子育て事情。  
あなたと同じ悩み、ありませんか——？



Aさん (30代女性)  
専業主婦・子ども2人



Bさん (30代女性)  
会社員・子ども1人



Cさん (40代男性)  
会社員・子ども1人

**ケース①：子どもの遊び場や相談場所がほしい**

夫の転勤で盛岡に来たばかり。知り合いも少ないし、一日中自宅で子どもと過ごすことも多いかな。

こないだ子どもを連れて「つどいの広場」で遊んできたよ。他のママとも話ができて楽しかった♪

気になるー！平日もやっているんだよね？私も今度行ってみたいかな。

**ケース②：地域の子育て、子育て経験者の支援**

東京の実家ではよく母が子どもの面倒をみてくれていたから、私よりなついていた気がする…

年の功というか経験値というか、やっぱり子育て経験者は上手だよな。

そう！見てて勉強になる！でも遠くなってから相談しにくくなった。

たしかうちの近所に、親子で集まれる場所があった気がするなあ…

**ケース③：育児休業のこと**

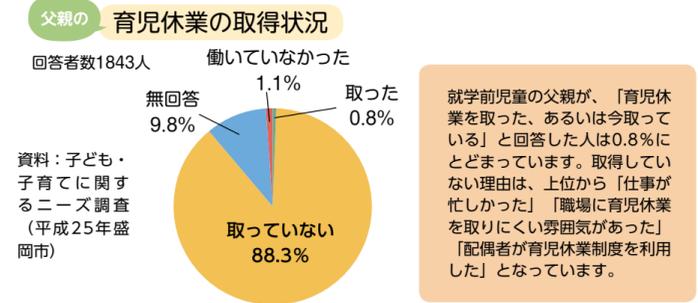
うちの子、やっと保育園に入れたから、4月から職場復帰したの。

よかったね！保育園に通わせるのはどう？慣れた？

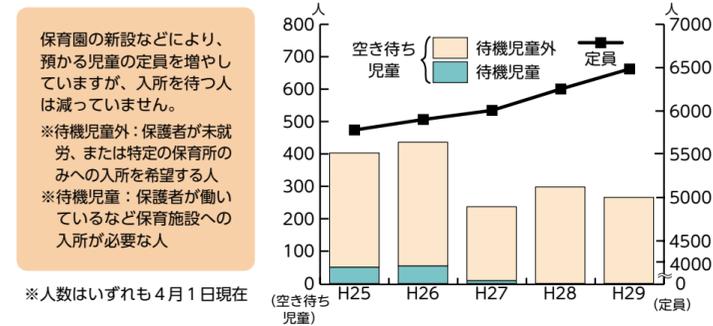
もう毎日が時間との闘いだわ！送り迎えとか、熱を出したときとか…うちの会社は定時退社や早退に理解がある方だけど、頻繁だとなんだか申し訳なくて…

そうなんだ。うちはまだ入園できてないから、妻の育休を延長してもらって、ほとんど妻に頼ってる。うちの会社は育休は取りにくい雰囲気があるし… (-\_-；)

## アンケートでもこんな結果が出ています



## 市の認可保育施設の定員と空き待ち児童の推移



こんなサポートありますよ

## 地域や企業の取り組みを紹介します

### 登下校の見守り活動

朝7時。都南東小スクールガード「かがやき見守り隊」のメンバーは、国道396号沿いの通学路で危険箇所立ち、子どもたちと元気なあいさつやハイタッチを交わして見送ります。「現役時代は忙しくてわが子の運動会にも行ったことがなく、地域で育ててもらった。その恩返し気持ちが活動のきっかけかな」と語るのは、同隊副代表の三田地義洋さん（74）＝乙部13＝。「未来ある人たちに私たちが手

を差し伸べる番。『週休7日』だしね」と笑顔で話します。伊藤浩さん（73）＝乙部4＝も同隊で長年活躍。「通学時間帯に家の前に立つ、散歩ついでに見守るだけでも十分」と、できる範囲での協力を地区の老人クラブで呼び掛けています。



### 子育ての息抜きを

「私たちは地域みんなのおばあちゃん役よね」と一緒に活動するメンバーと笑顔で話すのは、松園地区で子育てサロンの代表を務める主任児童委員の高畑アサ子さん（66）＝北松園四＝。「子育てに奮闘している親たちの息抜きの手助けができれば」と、同地区の民生委員・児童委員7人で活動を続けています。同サロンでは「にこにこ広場」と題して、キッズダンス教室や英語の読み聞かせなどを行うほか、親の悩み相談に乗ったり、

母親たちが作る子育てサークルの活動の支援もしています。高畑さんは「親たちが『ここに来ればホッとできる』と思える場所が市内にもっと増えてほしい」と話し、サロンで楽しそうに遊ぶ親子を見つめほほえみました。



## 安心して働き続けられる企業に

精密機器開発・製造業 (株)アイカムス・ラボ

子の看護などのため時間単位で取得できる有給休暇や、育休社員にボーナスを支給する制度を始めました。きっかけは、ちょうど制度作りの担当部署にいた社員が産休・育休に入ることになったこと。育休後に復帰しやすく働きやすい内容を自分の立場で考えてもらいました。おかげで実用性のある制度になったと感じています。若者や女性が安心して働き続けられる仕組みをつくるのは、企業として短期的にはリスクもありますが、長い目でみれば「人財」が残ることにつながるほか、新たな採用面でも大きなメリットになります。将来を見据えた体制づくりを今後も進めたいですね。



## 子育て応援が社内に浸透

情報通信業 (株)ワイズマン

産休・育休中の社員に毎月、育児雑誌を送っています。社内報や人事の情報なども同封。雑誌を送る担当者は直筆で「お子さんの写真、大歓迎」「気軽に連絡して」などと書き添えていて、受け取る社員からは「会社から応援されている、つながっている感じが持てる」という感想も寄せられます。そのせいか、休業中に子どもの顔を見せに来てくれる社員も多く、また情報共有がされているためスムーズに職場復帰できるようです。この取り組みは10年以上続いている、社内ではむしろ「当たり前」。定時より早く出社し早く帰る制度を使って子どもの迎えに行く社員も多く、周囲もそれを特別に感じていません。子育て応援が社内に浸透しているようです。



### 気軽に立ち寄れる場所

中ノ橋通一丁目にある通所介護施設「フキデショウ文庫」。1階は図書館のように本がずらりと並び、誰でも利用できる共有スペースとなっています。「地域の人が気軽に立ち寄れる場所があればいいな」と思っていました」と話すのは、運営するシアワセ計画舎代表理事の沼田雅充さん（53）＝中ノ橋通一＝。子ども向けの本も多くある共有スペースは放課後の子どもたちの居場所にもなっていて、働くお母さんたちにも好評です。ま

た、子どもが1人でも気軽に食事をしに来れる「子ども食堂」を他団体と協力して開催し、年間約1000食を提供しています。沼田さんは「これからも地域の事情に合った子育て支援をしていきたいですね」と語りました。



### 父親の活動

校舎内鬼ごっこ、肝試し、冬の運動会——。子ども同士で会議を重ね決めたイベントを、年4～5回、縁の下で支えるのは、月が丘小の児童の父親らで構成する「月小おやじの会」。19年の発足時から携わる石戸満さん（45）＝西青山二＝は「会議から開催まで、教室や家庭と違う場では普段と違う一面をのぞかせる子も。親が子どもを多面的に理解することにつながっている」、代表の尾形将敏さん（40）＝月が丘三＝は「無理のない

程度なら手伝いたいという“潜在のおやじ”はもっといるはず。一歩踏み出して、まずは登録だけでもと裾野の広がりを期待します。2人は「知っている子が増えて、運動会など学校行事に行くのもすごく楽しくなるよね」と談笑します。



子育ては、自分には関係ないと思っていないませんか——

あなたもできる  
子育て支援は  
次のページへ